[活動報告]

技術と社会部門講演会「技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる」

部門講演会 No.11-56　講演会、見学会およびエネルギー学習会の報告

11 月 19 日（土）に部門講演会とエネルギー学習会が琉球大学工学部（千原キャンパス）において開催されました。共催は日本設計工学会、後援は沖縄県工業連合会と沖縄県中南圏域産業活性化協議会にお願いしました。翌 20 日（日）には見学会が開催されました。

講演会は、「技術教育・工学教育（Ⅰ）及び（Ⅱ）」が計 11 件、「機械技術史・工学史（Ⅰ）及び（Ⅱ）」が計 10 件、「設計教育・CAD 教育（Ⅰ）及び（Ⅱ）」が計 6 件、「エネルギー教育・環境教育」で 5 件、「沖縄の特色ある研究」で 4 件、「沖縄の戦後技術史と新たな取り組み」として、浄化センターのバイオガス利用、廃ガラス及び廃自動車のリサイクルについて 3 件、全体で 39 件の研究発表があり、活発な質疑応答が行われました。特別講演会として、九州支部沖縄地区会の参加協力も得て、沖縄の豆腐（島どうふ）づくりの機械化を目指し、強い信念と人生を賭けて成功させた、仲村食品（株）・仲村正雄社長に講演をお願いしました。また、小・中学生及び保護者を対象にエネルギー学習会(No.11-121）を開催し、模型ソーラーカーの工作・実験と再生可能エネルギーに関する学習を通して、3･11 以後の日本や沖縄県のエネルギーの在り方について考える機会としました。

生憎の小雨模様で移動が大変でしたが、那覇新都心（1987 年に返還された米軍牧港住宅地区の跡地・約 200ｈａの再開発地区）にある、木造赤瓦の古民家風の居酒屋にて懇親会を開催しました。九州大学吉田先生の司会のもと、緒方部門長の挨拶で始まり、泡盛と琉球料理に舌鼓を打ちながら、途中で歌・三線の出前サービスも受け、和気あいあいと懇親を深めることができました。懇親会の席で、部門功労者表彰として、勝田正文先生（早稲田大学）への記念メダルの授与式を前部門長の黒田先生にお願いしました。

2 日目の見学会は、那覇バスターミナルを出発し、本島北部（通称やんばる）の目的地に向かいました。午前は、名護市にある名護博物館（旧市役所跡）、津嘉山酒造所（鉄の暴風とも言われた艦砲射撃の戦火をくぐり、奇跡的に破壊を免れた赤瓦ぶき木造建屋の泡盛工場は、操業 80 余年の酒造所で、2009 年に重要文化財に指定されている）を見学しました。名護パイン園でソーキそば定食を頂きました。また、ガラス越しに県産パイン原料のワイン醸造設備を見ることができました。

午後は、読谷村の琉球村（染・織物、三線、陶芸などの体験教室がある）で、水牛に砂糖車を引かせてサトウキビから搾汁する、昔の製糖風景を見学しました。（株）トリムは、廃ガラスを原料に多孔質軽量発泡資材を開発・製品化し、再資源化プラントを国内外で建設する等、エンジニアリング業務も行っています。ガラス粉砕用ミルの内部構造を詳しく見ることができました。最後に、壷川東公園を訪れました。先の大戦前まで、沖縄県にも

特別講演会の様子

部門功労者表彰の様子

見学会の記念写真（名護博物館）

軽便鉄道跡（壷川東公園）

鉄道（軽便鉄道；3 系統の約 48km）がありました。僅かながらこのことを窺い知ることのできる場所が、那覇市内にあるこの壷川東公園です。展示車両は残念ながら当時のものではなく、説明用の石碑を通して想像するしかありません。

戦後、鉄道復旧は果たせず、自動車道路整備の推進が優先されました。2003 年 8 月 10 日（2003 年にやっと）、那覇空港・首里間、約 13km にモノレール（ゆいレール）が開通しました。しかし、交通渋滞緩和の効果はいまひとつで、時間とエネルギーのロスが非常に大きく、沖縄の運輸部門の低炭素化は急務となっています。既存の公共交通機関の高効率化と共に、沖縄本島縦断型の鉄軌道の導入が何としても必要であると考えます。交通渋滞の中、講演会会場の琉球大学から懇親会会場の那覇新都心（おもろまち）まで移動された県外からの参加者も、きっとそのように感じたに違いありません。

技術と社会部門講演会が沖縄県で開催されたのは初めてのことでした。至らないことも多々あったと思いますが、九州大学大学院時代の学友である吉田先生と琉球大学工学部及び教育学部の教員並びに学生の協力を得て、なんとか無事終えることができました。参加

された全ての皆さんに感謝すると共に、本部門が技術立国日本を支える人材育成を担うべく、今後ともさらに発展することを期待します。

清水　洋一（琉球大学）

日本機械学会
技術と社会部門ニュースレターNo.26
(C)著作権:2011　社団法人　日本機械学会　技術と社会部門